

ビハーラ

浄土真宗 東京ビハーラ
 〒104-8435
 東京都中央区築地3-15-1
 築地本願寺内
 ☎(03)5565-3418
 会長 北村信也

● ビハーラ実践活動協議会 ●

テーマ

死ぬ苦しみからの解放と 人間の成長

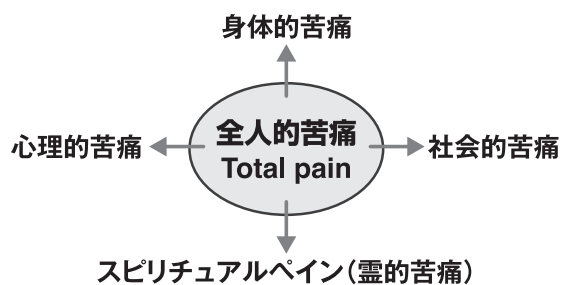
杏雲堂病院緩和ケア顧問 医師 種村健二郎

ビハーラ実践活動協議会が2014年10月29日、築地本願寺で行われた。講師は、杏雲堂病院緩和ケア顧問の種村健二郎先生。以下、先生が示されたレジメを紹介しよう。

1. 死ぬ苦しみとは？

告知が始まったあとの1967年に、現代ホスピスが出来た。現代ホスピスを創ったシシリー・ソンドースによって「全人的苦痛 total pain」という概念が作られた。

終末期医療（ホスピス）は、全人的苦痛の解放を目指して創られた。



全人的苦痛は、身体的苦痛、心理的・社会的苦痛、そしてスピリチュアルな苦痛という4つの側面をもつ。

- ①**身体的苦痛：痛み** … 疼痛や呼吸苦、不快な身体症状
 自分（私）と身体の間で起こったトラブル、葛藤。関係性の破綻である。
- ②**心理的苦痛：うつ** … 「駄目になった」という自己価値の喪失感
 自分と自分の中で起こったトラブル、葛藤。関係性の破綻である。
- ③**社会的苦痛：怒り** … 「お前なんか」 という他者の軽視への怒り
 自分と他者（家族や医師、友達など）の間で起こったトラブル、葛藤。関係性の破綻である。
- ④**霊的苦痛：不安** … 「なぜ私が死ぬのか」という、姿のないものへの不安や恐怖
 自分と絶対的他人（神）の間で起こったトラブル、葛藤。関係性の破綻である。
 （多神教文化のなかの絶対的他人は、自然

ビハーラ

ビハーラとは、サンスクリット（梵語ともいわれるインドの古語）で、安住、安らかな落ち着き、くつろぐこと、僧院のことをいいます。

西洋のホスピス活動に代わる仏教の言葉として提唱され、活動は全国的となり、より広がりをもちつつ今

日に至っています。

私たちのビハーラは、老・病・死に直面する人や家族とともに、どのような状況にあっても輝きを失うことのない、その人らしさの尊厳に関心を持つ仲間たちです。

の働き〈真理〉、他力、具体的には“死ぬこと”)

全人的苦痛＝身体的苦痛＋心理・社会的苦痛＋スピリチュアルな苦痛ではない。

全人的苦痛＝身体的苦痛＝心理・社会的苦痛＝スピリチュアルな苦痛である。絶対的他者と自分(私)との間のトラブルがなくなれば、身体的、心理・社会的苦痛のすべて、すなわち、全人的苦痛(死ぬ苦しみ)は解放されるという関係にある。

まとめ：1)「死ぬ苦しみ」は、死ぬことを伝えられ、死ぬことを自覚して湧き上がる身体的および非身体的苦痛の総称であり、環境のすべて(世界、宇宙)と自分(私)の間に起こったトラブル、葛藤、関係性の破綻である。

2)「死ぬ苦しみからの解放」には、宇宙観や生命観、絶対的他者への観点が重要となる。

2. 死ぬ苦しみからの解放には、2つの道がある

1) 私たち日本人は、死ぬ苦しみから解放されない民族なのか。

☆しかし、「浄土」の存在が「自明」であったのは、せいぜい平安から鎌倉時代まで。もはや、私たちの多くは「死後の世界」を信じることができません。現代日本人は、大脳が作り上げた「一神教と死後世界」という、「死を受け入れるためのカード」を持っていないのです。(中略)私たちは心安らかに死ぬことができない国民です。国際的にも世界史的にも、日本人は「死の不安」の「フロントランナー」になってしまったのです。(中川恵一『がんと死の練習帳』朝日文庫 2013 東大病院緩和ケア診療部長・放射線科准教授)

2) 関係の捉え方は、キリスト教と仏教では違う

☆「中軸構造」とは、明確な座標軸がある構造を指します。例えば、キリスト教の場合、基本的に「神と私」は造物主と被造物として相反する存在であって、どこまでいっても同一化することはありません。この構造上に、善と悪、正統と異端、救いと絶望、中心と周辺

などが配置されます。座標軸があるからこそ、中心と周辺は明確になります。まずは、このような構造になっている体系を中軸型と呼ぶことにします。

それに対して、「中空構造」は明確な座標軸をもたず、さまざまな要素がバランスをとって配置される、さまざまな要素が融合する、みんな均質化する、そのような性質をもっています。そこでは相反するものも同一化するので、善と悪や、正統と異端などの境界は不明瞭になります。例えば、大乘仏教のように「すべては空だ」「煩惱すなわち悟りである」などといった構造は中空型です。(釈徹宗『法然親鸞一遍』新潮社 2011、河合隼雄『中空構造日本の深層』中央叢書 1982 より引用)

☆悟りといふ事は如何なる場合にも平気で死ぬる事かと思つて居たのは間違ひで、悟りといふ事は如何なる場合にも平気で生きて居る事であった。(正岡子規『病牀六尺』1902)

キリスト教は、自分と神との関係を明確にする。仏教では、絶対矛盾的関係を同一化する。

まとめ：関係の捉え方は、キリスト教と(大乘)仏教では異なる。死を明確にして「死を受容する」という文化ではない。生死一如である。ところが、現在の終末期医療の現場では、「キリスト教に基づく死の受容」が強要されている。

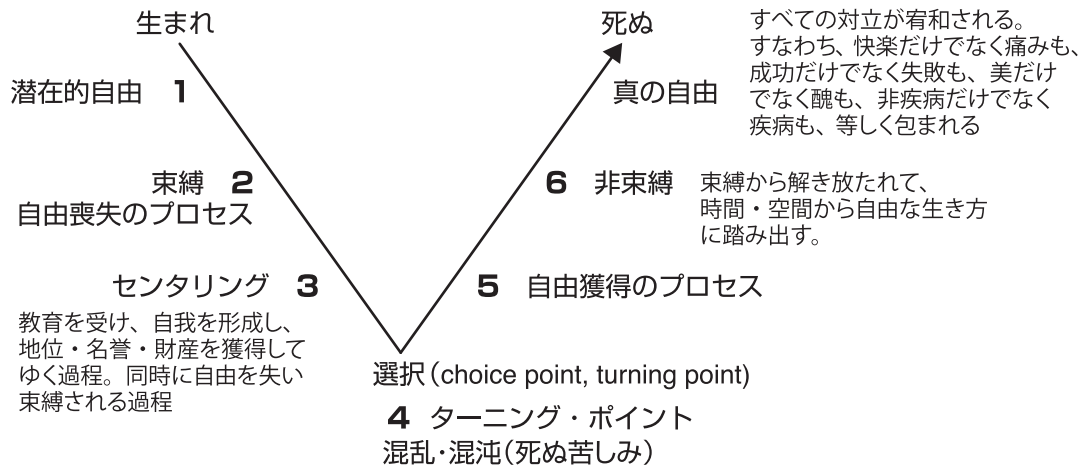
3. 仏教は、関係性の変化するプロセスが基盤になる

「未来の宗教は、広大無辺の宗教となる。それは、人格的神を超越し、硬直した教義や神学を避けなければならない。自然と精神のすべてが、有意義な一体として体験される宗教的感覚に基づかなければならない。……もし近代科学に対応できる宗教があるとすれば、それは仏教である」(アルベルト・アインシュタイン、ケネス田中『高まるアメリカ仏教』春秋社 2014 より引用)

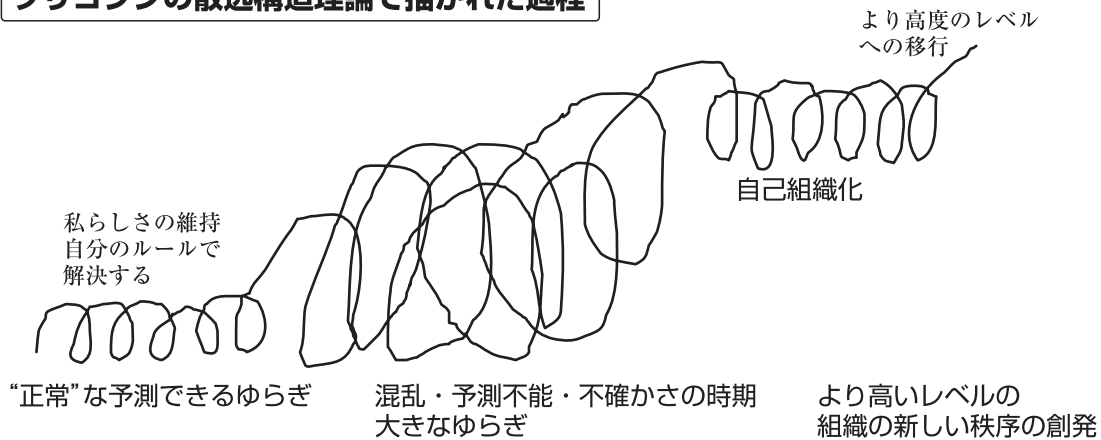
1) 意識の進化における新しい科学的理論(M・ニューマンより)【右ページ上図】

(「ヤングの意識の進化のスペクトル」と「プリゴジンの散逸構造論で描かれた過程」は、『マーガレット・ニューマン看護論』マーガレット

ヤングの意識の進化のスペクトル



プリゴジンの散逸構造理論で描かれた過程



A. ニューマン、医学書院 1995 から引用)
 ☆ニューマンは、自分の“意識の拡張”という
 概念と、アーサー・ヤングの“人間の進化”
 という概念を対照させ、ヤングの意識の進化
 のスペクトル上の“チョイス・ポイント”（選
 択のとき）であると述べている。この選択の
 ときは、自分の限界に気づき、新しい認識を
 得て、真理を“悟り”束縛から解き放たれて、
 自由を獲得するときである。（中略）“ターニ
 ング・ポイント”の言葉は、“チョイス・ポ
 イント”の意味が込められている。自己につ
 いての新しい認識から真理を悟り、束縛から
 解き放たれて、がんに罹患した現実の中で、
 自分にあった新しい生き方のルールを学び、
 踏み出すとき、である。（遠藤恵美子『希望
 としてのがん看護』医学書院 2001）
 （Yung AM『われに還る宇宙』日本教文社

1988 科学者から哲学者にもどり、進化につ
 いての独創的理論を生み出す)
 ☆（プリゴジンの“散逸構造”とは）生体シス
 テムは開放システム、すなわち均衡から遠
 ざかり、不可逆的・非直線的变化を遂げて
 いくシステムである。生体システムは、環
 境との間でエネルギーと物質を交換するこ
 とができる。熱力学の特性が開放システ
 ムに拡大されると、新しい特性があらわれ
 る。それが自己組織化の能力、つまり、より
 低いレベルの組織的複雑性から、より高
 いレベルの組織的複雑性への自然発生的
 転換である。重要なのは、不可逆的過程
 が基本的な建設的役割を担っていること
 である。（前出『マーガレット・ニュー
 マン看護論』）（Ilya Prigogin ベル
 ギーの物理・化学者、1977年
 ノーベル化学賞受賞）

まとめ：不可逆的プロセスにある生命体の環境との関係性は、混乱・混沌をはさんで自己中心的関係から全体的関係に変化する。重要なことは、不可逆的プロセスそれ自体のなかに、自己組織化（混乱・混沌から、自然によりレベルの高い組織体に移行して秩序が回復する）の能力が存在していることである。

2) 意識の進化の過程に親鸞思想を重ねる【下図】

☆“凡夫”といふは、無明煩惱われらが身にみちみちて、欲もおほく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころおほくひまなくして、臨終の一念にいたるまで、とどまらず、きえず、たえずと、水火二河のたとえにあらわれたり。(中略) かかるあさましきわれら、願力の白道を一分二分ようようづつ歩みゆけば、無碍光仏のひかりの御ところにをさめとりたまふがゆえに、かならず安楽浄土へいた



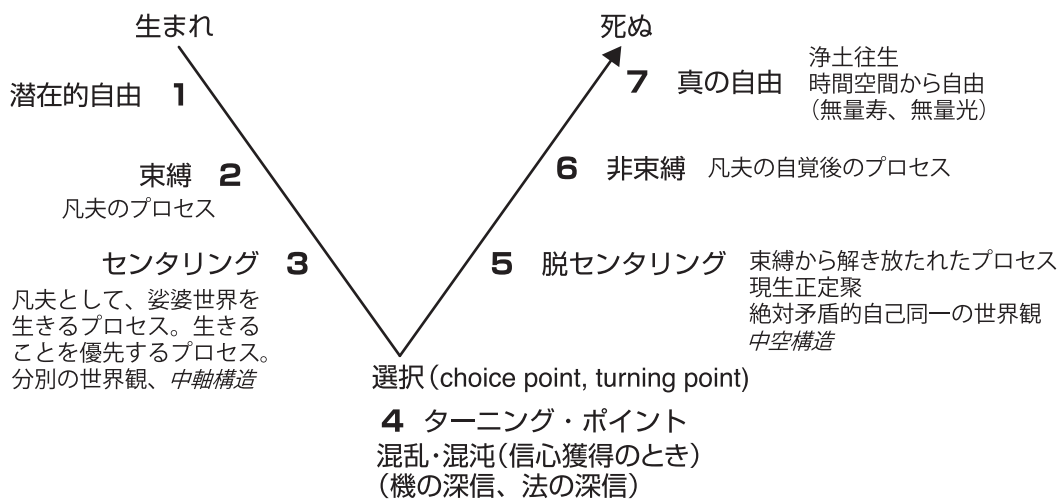
◀種村健二郎先生

▼ビハーラ実践活動推進協議会会場

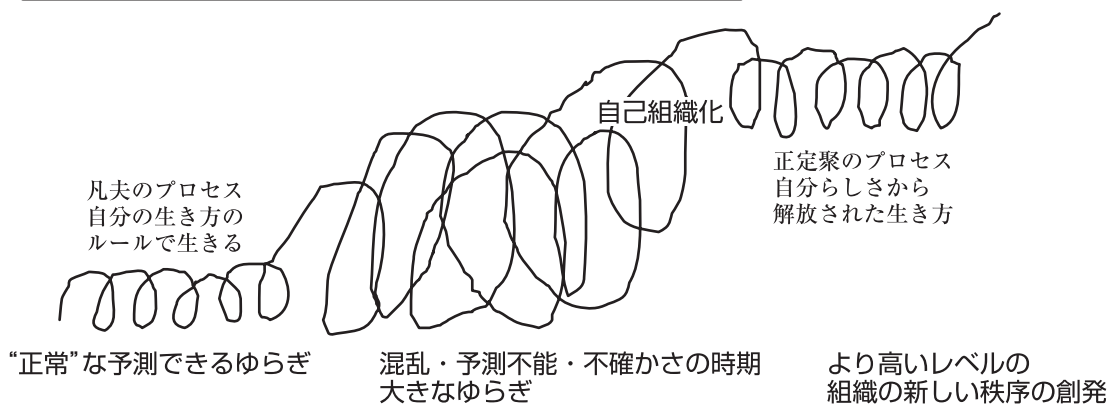


れば、弥陀如来とおなじく、かの正覚の華に化生して大般涅槃のさとりをひらかしむるをむねとせしむべしとなり（親鸞聖人「一念多念文意」浄土真宗聖典）

親鸞思想をヤングの意識の進化のスペクトルに重ねる



プリゴジンの散逸構造理論で描かれた過程に重ねる



☆「深信というは即ち是れ深く信ずるの心なり。一つには決定して深く、自身は現にこれ罪惡生死の凡夫、曠劫よりこのかた、常に没し常に流転して出離の縁あることなしと信ず。二つには決定して深く、かの阿弥陀仏の四十八願は、衆生を摂受して、疑いなく、慮りなく、かの願力に乗じて定んで往生を得と信ず」(善導大師「散善義」)。「信心とは“どうしても救われない私が、如来の願力によって、間違いなしに救われていく”と信ずることあります」桐溪順忍『親鸞は何を説いたか』教育新潮社1964)

まとめ：(仮説) 人生は、親鸞思想では、2つのプロセスからなる。凡夫という自己中心的な中軸構造の世界観(分別の世界観)で生きるプロセスと、自己中心性の囚われから離れて現生正定聚という中空構造のプロセスの二つがある。信心が、その転換点である。

凡夫のプロセスから現生正定聚への転換は、自然の働き(他力)であるが、自分の行為への深い洞察と、自然の働きへの感謝が同時におこる。

病気や障害のないときは、自己中心的に生き、発展する。しかし、死ぬことは自己中心的な生き方のルールでは解決できず、苦しみ、混乱する(死ぬ苦しみ)。やがて、自己中心的な生き方のルールが苦しみの原因であったことを学んで(機の深信)、自己中心的な生き方のルールへの執着を手放し(信心獲得)、時空から自由な方向に歩

みだす(現生正定聚)。これが「死ぬ苦しみからの解放」であり、これは不可逆のプロセスを生きるすべてに備わっている働きである。

4. 日本の文化のなかの人間の成長とは、中軸構造の世界観から中空構造の世界観に内的な変革を遂げる自然の働きのことである(と思う)。

死ぬという環境に出会って、今までのルールが機能を失って、混乱・混沌(死ぬ苦しみ)状態になる。そして、「自我を形成して名誉・地位・財産を作ったその人のルール」が苦しみの原因であることに気付く。同時に今までの方向性を反転する。「私らしさ」からの執着を離れて時間と空間から自由になる」ことを人間の成長と意味づけている。この「人間の成長へのプロセス」は、不可逆的に変化する生命体のプロセスそれ自体に備わった自然の働きであり、自己組織化である。すべてが、この不可逆のプロセスの働きのなかにある。このように私たち日本人は育てられている(のだと思う)。

一方、キリスト教では、私たちの罪惡を背負って処刑され、そして復活したキリストの存在を信じて神からの“赦し”を得る、すなわち、“和解”という関係に変化して、神と私の対立・破綻が解消されると考えるようだ。神と私(人間)とは一緒にならない。信ずる私(私らしさ)を明確にして赦しを願うようである。

「緩和ケアは、“その人がその人らしい人生を全うするように寄り添うこと”である。」(金城大学学院長 柏木哲夫講演(2014年)“緩和ケアのこころを深める”)

ビハーラ活動をサポートしています

<p>西原祐治著 仏さまの三十二相 —— 仏像のかたちにひそむメッセージ</p> <p>沈黙の美、しなやかな美、機能美を備えた仏像の姿に籠められている仏の願いを解き明かす</p>	<p>西原祐治著 親鸞物語 —— 泥中の蓮花</p> <p>親鸞聖人のご生涯を小説風に描き念仏他方の本質を浮き彫りにする</p>	<p>西原祐治著 わかりやすいQ&A付 浄土真宗の常識 —— 真宗門徒必携</p> <p>浄土真宗の歴史、教えの他、仏事、お墓についても解説。</p>
<p>(※右三点いずれも1575円)</p>		
<p>朱鷺書房 〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路 1-1-9 ☎06(6323)3297 FAX.06(6323)3340</p>		

<p>築地本願寺 日本料理 宿泊・軽食</p>	
<p>ご法要・ご法事のお弁当、お料理の 出張サービス承ります</p>	
<p>電話 (03) 3544-0551 (代) 築地本願寺第1伝道会館内</p>	

親鸞思想では、自分を罪惡生死の凡夫であることの自覚（自己の限界の気付き）が阿弥陀仏の救済（自然の働きへの絶対的信頼）となり、関係性が“感謝”に変わる。

「無礙光の利益より／威徳広大の信をえて／かならず煩惱のこほり（氷）とけ／すなはち菩

提のみず（水）となる」（高僧和讃 三九）

“私らしさ”のこだわりから自由になること、凡夫の自覚こそが人間の成長の起点となる（と思う）。周囲環境のすべてに、宇宙に「ありがとう」という感謝が、死ぬ苦しみからの解放への転換点となると思われる。

ビハーラ実践活動における「死ぬ苦しみからの解放」の位置づけ

1. ビハーラという用語と歴史

1981年 聖隷三方ヶ原病院ホスピスが作られ、1984年に大阪淀川キリスト教病院ホスピスが作られた。1985年、田宮仁氏が「仏教の教えに基づくホスピス、即ち、仏教ホスピスの代わりに、ビハーラという用語を用いる」ことを提案した。

1986年 大谷光真前門主が代表者となり、仏教ホスピスの設立を目指す「浄土真宗本願寺派ビハーラ実践活動研究会」が発足し、1987年より全国に組織化され始めた。1987年、「東京ビハーラ」ができる。

1987年 「がん患者・家族語らいの集い」（仏教情報センター内仏教ホスピスの会主催：代表小泉敬信、東京ビハーラ共催）

2001年 「がん患者・家族語らいの会」（東京ビハーラ主催）に変わって現在進行中。

1993年 長岡西病院ビハーラ。

2004年 中野立正佼成会病院ビハーラ。

（2008年 本願寺派あそかビハーラ病院：緩和ケア病棟として認可された施設ではない。）

現在は、308施設が登録されている。京都あそか病院は、終末期専門病院としては登録されていない。

2. ホスピスとは何？

1) 古典的ホスピス（宗教施設）

四世紀頃から巡礼者を対象とする施設。病み、死にゆく人は「預言的魂」として大切にもてな

した。安らかな死までの「看取り」が基本的な目標。

2) 現代ホスピス（医療施設）

1967年に作られたセントクリストファーホスピスが最初。「死ぬこと」を伝えられた終末期患者を対象とする医療施設。痛みの治療を始めとする「死ぬ苦しみからの解放」が目標。落ち着けば在宅療養へ。

3. 問題点

1) 本願寺派ビハーラ実践活動と親鸞思想

1987年の発足当時の浄土真宗本願寺派ビハーラ実践活動は「仏教ホスピスの設立を目指す」と謳われていたが、1) 古典的ホスピス（宗教施設）、2) 現代ホスピス（医療施設）のどちらへ向かうのか明確ではないままに始まった。1990年代になると、ビハーラ実践活動は社会福祉活動の方向に変わって、ターミナルケアは社会福祉活動（ビハーラ活動）の一部に縮小した。中心から外された本願寺派ビハーラ実践活動のターミナルケア部門の方向は、活動目標の設定が不明のまま据え置かれた。1)-1「死の看取り」なのか「死ぬ苦しみからの解放」なのか。

一方、築地本願寺を会場とする「がん患者・家族語らいの集い」は、「死ぬ苦しみからの解放」を目標としたビハーラケアを理念にして続けられたが、「浄土真宗は臨終業成ではない。平生業成である」「救済は還相回向の働きである。



浄土真宗
東京ビハーラ

東京ビハーラの願い

私たち東京ビハーラは、思いどおりにならない人生の中で、どのような状態になろうとも、安心して、ありのままの自分でいられる世界を目指しています。

生老病死の苦しみや悩みを直視し、自らの問題として、人びととともに歩みたいのです。そして、人としての思いやりや優しさ、生きることの厳しさ、悲しみ、そして喜びを、みほとけの大慈悲の光の中に、ともに分かち合おうと思います。

弱者・強者といった差別から離れ、すべての人が、かけがえのない一人の存在として受け入れられ、人と人の出会いが自然に行われる——そんな社会の実現を願っているのです。

仏になっていない者の行う行為ではない」と批判されてきた。

2008年、西本願寺あそか診療所ビハーラが「終末期医療施設」として建設された。その施設は、浄土真宗本願寺派ビハーラ実践活動とは関係がなく作られた感じをもつが、創設時には、あそか診療所に親鸞思想をもつ看護師、宗教師が集まったようである。しかし、彼らは現在存在しない。ビハーラ病棟実践活動の親鸞思想の「正当性」を示す根拠は明確になっていない。 1) - 2 「ビハーラ実践活動は、親鸞思想に基づく活動なのか」

2) ビハーラ実践活動とチーム、チーム活動

田宮仁氏は、1993年に「臨終行儀」を分担執筆している。この中では、僧侶による死の看取りが宗派ごとに詳しく記載されていることから、田宮氏自身は、ビハーラを僧侶主導の「看

取り」に置いていると推測される。同年に、長岡西病院のビハーラが緩和ケア病棟の認可を得ているが、僧侶と医療者、その他の専門者、ボランティアなどのチーム活動は、模範とする形には形成されていないようである。他の宗派活動でも、宗教者の活動は、「死の看取り」に方向を置いているように推測される。結果として、僧侶と医療者その他の職種とのチーム形成がない。

3) 活動者として本願寺派ビハーラ実践活動への私見

「死ぬ苦しみからの解放」を目標とする宗教者、医療者、ボランティア、その他のチームによる親鸞思想実践活動総体。



ビハーラ活動をサポートしています

「本物」を知っている 求めている 皆様へ……

天然香木配合のお線香——《風韻シリーズ》

風韻 伽羅 [短バラ詰 6,000円
長1把入 6,000円
風韻 沈香 [短バラ詰 4,000円
長1把入 4,000円

風韻 白檀 [短バラ詰 2,000円
長1把入 2,000円
その他、風韻御焼香・各種香木刻焼香
各種 大薫香・中天香・大天香

各種徳用型もごさいます。

全国総発売元 創業明治43年

株式会社 こもりコーポレーション

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町11番6号

TEL. 03-3666-8886 FAX. 03-3662-2688

東京ビハーラが通う傾聴施設

あそか園

(東京都江東区)

一世を風靡しているスカイツリーのお膝元に私達が月に一度通う特別養護老人ホーム「あそか園」がある。東京ビハーラの数人の有志は、その建物の2階から5階に生活する、介護を必要とする方々（ショートステイを含めて約100人程度）の日常全般のお話を傾聴させていただいている。

あそか園は、その基本理念として、①老人福祉の精神、②仏教の慈悲の心（人智でなく仏智力を土台とした助け合い）という言葉掲げている。これは、隣接する「あそか病院」の礎が大正12年、西本願寺、九条武子夫人（第21代門主明如上人の次女）の尽力により建てられたもの。これが、多くの支持者に援護され、受け継がれ、病院のみならず、特養、在宅支援センターを包括する「あそか会」として現在に至っており、根幹の精神になっている。それを示しているからだと推察させられた。ちなみに、あそか園は、江東区内の特養としての指定は最初であったとの事。そんな「あそか園」では、入

所者の方々への介護支援に熱心で、東京ビハーラの傾聴活動のみならず、シーツ交換、理容、マッサージ、外出援助、と枚挙に暇なく多くのボランティアを受け入れている。

さて、最初に居室訪問の形で「傾聴」が始まったのは昭和62年で、あそか園初代園長だった近衛正子氏（上記、九条武子夫人の姪）が当時、東京都港区三田の當光寺住職の渡辺普相先生に、あそか園で御往生された方々の追悼法要や、法話会を依頼された事があったと聞いている。この法話会を皮切りに、渡辺先生は平成23年ごろまでの長きにわたり活動され、その御子息、元綱氏も法話のみならず、傾聴にも参加され、新参の私達、ビハーラ会員は多くを学ばせていただいた。

初期の傾聴は、坊守様を中心とする女性門徒の方が3、4人だったようだ。そこで男性入居者との会話がなかなか出来にくいということで、男性の傾聴の出来る方として、前田脩氏（深川ご出身の元軍人であり、真宗門徒）が選ばれた。前田氏は頻繁に傾聴に来られるのみならず、真宗の傾聴とは何たるかを、ご自身の傾聴体験や大須賀発蔵先生（元茨城カウンセリングセンター理事長）の教えを通して多くを学ばれた。そして入居者が安心して身の上話、病弱の辛さ、死への恐れ等の訴えを話せるようにと真摯に聴かれた。やがて入居者が心を開いてくれて、その方々が自ら安穩の世界へと導かれる事を願い続けたと伺った。

あなたも参加しませんか 浄土真宗 東京ビハーラ 入会のお誘い

東京ビハーラは、皆さまの会費で運営しています。援助のお力をお寄せください。

- ☆ 正会員（主旨に賛同の方） 年会費 5,000円
- ☆ 賛助会員（援助くださる方） 年会費10,000円

《申込方法》はがきに「正会員・賛助会員の別」「ご芳名・ご住所・電話番号」をご記入の上、下記宛に、ご連絡ください。申込書等を送らせていただきます。

〒104-8435 東京都中央区築地3-15-1
築地本願寺内
「浄土真宗 東京ビハーラ」事務局



▲特別養護老人ホーム あそか園入口

ここで、過去の記録帳から前田氏の傾聴記録を一つ、個人情報に触れない範囲でご紹介させていただきます。ある日、「傾聴」に伺い、平素お話させていただいていたO氏が骨折で隣の

あそか病院に入院されていた。そこで隣のベッドに新しく入所された方との傾聴をさせていただこうとしたが、いまひとつ乗気がないようで、どう会話を進めても駄目だった。そこで、その日は諦め、また次の傾聴では、前もって介護師さんからその方の情報を少し頂いておいて、「お若い時は築地で働いてらしたんですってね」「活気あったでしょうね。でも、朝早くで大変でしたでしょう」などと話かけられたが、相手は何も返してこなかった。また、諦めて帰ろうとしましたら、「あの頃はさあ…」と呼び止められ、それからはすっかり打ち解けたということである。入居の方々は、認知度の高い方、精神を患っている方、それぞれの長い歴史を語りたくても、身体的障害で、お話がスムーズにできない方もある。だから、傾聴のリズムもその相手に合わせる必要がある。もちろん、宗教的にも私達より親鸞聖人の著書や経典などに詳しい方々もおられるし、十人十色である。だから前田氏は「こんなに幅広い人間模様を見聞きさせていただける場所は他にないでしょう」と、どんなに暑い日でも寒い日でも、あそか園に一步入ると気持ちが爽やかになり、会話をありがたく傾聴されたということであった。私達後輩も、前田氏を見習って、お互いにどんな違った人生であろうとも、同じ人間同士として、施設の方々一人一人の貴重な歴史をありがたく聴かせて頂いている。

最後に、あそか園で長きにわたって法話会をご担当くださった渡辺普相先生のことは、ここでは触れなかったが、あそか園を知る人々に素晴らしい思い出を残して下さったことに深く感謝し、哀悼の意を表すとともに、謹んでお念仏申し上げます。

あそか園

…… 傾聴ボランティア活動へのお誘い ……

特別養護老人ホームあそか園は、あそか病院（大正12年9月、西本願寺が設けた関東大震災罹災者救護所から発足）の母体である社会福祉法人あそか会により、昭和54年6月に、東京都江東区で初めての特別養護老人ホームとして開設されました。

所在地：〒135-0002 東京都江東区住吉1-17-11

電話：03-3632-3615

アクセス：総武線錦糸町駅 南口下車徒歩9分
都営地下鉄新宿線住吉駅 または
営団地下鉄半蔵門線住吉駅 A2出口
徒歩5分

《東京ビハーラのあそか園への訪問》

毎月、第四水曜日の14時から16時までが活動の日時です。

最初にご注意いただく点は、このボランティアは施設入居の方々の居室に伺うという形ですので、あそか園担当者の許可を必要とすることです。

お申し込みは築地本願寺の東京ビハーラ担当までお電話ください。折り返し担当者からご連絡させていただきます。

東京ビハーラ TEL 03-5565-3418

《傾聴という活動について》

傾聴を始める前に、模擬体験や理論、スキル等を勉強しなくてもいいのですかというご質問をよくいただきます。もちろん、体験や勉強をされていることは大歓迎ですが、これから始められる、また始めたいという方々には、経験者といっしょに傾聴をしていただき、さらに、無理のない形でビハーラ研修などを通して、真宗

ビハーラ活動をサポートしています

築地本願寺

こころの電話

- ▶ 3分法話 ① 03-3541-0282 ② 03-3541-0294
①②回線ともに同じ法話をお聞きいただけます
- ▶ インターネット法話 <http://tsukijihongwanji.jp>

築地本願寺新報

- ▶ 毎月1回発行 ▶ 定価：1年で1,200円(送料とも)

松戸家株式会社では、仏事に関する全てにお応えいたします。

葬儀 石材 霊園 僧侶 仏事 生花 料理 返礼 保険

お問い合わせ

総合仏事の
葬儀・仏壇・霊園・墓石

松戸家株式会社

☎0120-148-995

本店/〒270-2254 千葉県松戸市河原塚403番地 都立八柱霊園正門前

- ホームページをご覧ください。 <http://www.matudoya.co.jp>
- Eメール boseki@matudoya.co.jp



▲あそか園での傾聴〈居室前での傾聴〉

を土台とした傾聴を学んでいただけたら、と考えております。

傾聴活動が続けようとする基本的な心情、あるいは動機には、それぞれの人の人生から多くのことが挙げられるでしょう。しかし、真宗の場合には、これがボランティアで他人のためにするというのではなく、これは自分の止むにやまれぬ思いから、自分の慙愧の思いから発するからこそ続けることができると考えます。居室訪問は誰かを慰めに行くのではなく、ともに、ひとときを過ごすという姿勢です。何かを解決してあげようとアドバイスすることが目的でなく、話す側は話すことでその人の生涯を振り返る時間を味わい、聴く側は聴く事で自分自身を改めて考え直すという、双方がともに戴くことを大切にしています。

皆さまのお問い合わせを、お待ちしております。

小児がん患者ご家族の方へ

築地本願寺では、国立がんセンター・聖路加国際病院小児科入院患者のご家族の方の宿泊を提供しています。

場 所：築地本願寺第一伝道会館宿泊施設
本堂に向かって右側の3階の宿泊所です。1室4名様を2室提供させていただきます。

料 金：一泊1,000円

対 象：小児がん患者家族

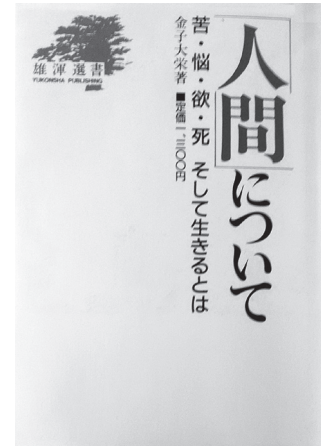
連絡先 (申し込み)

浄土真宗 東京ビハーラ事務局
〒104-8435 東京都中央区築地3-15-1
電話 03-5565-3418 (14時～17時)



私の出遇った一冊

金子大栄著
「人間について」



雄渾選書 (〇〇社刊)
〇〇〇円

副題に「苦・悩・欲・死 そして生きるとは」とあります。ビハーラの活動にいちばん大事な、人間を知ることができるかしらという期待を持って、読み始めました。出遭った「近代教学」を構築した大学者さんが書いたものだから、さぞ難しいのではとページをめくると、とても平易な文章で、ご自身の体験を通して、諄々と諭すように書かれていて、引き込まれるように読み進みました。一つ一つ納得する言葉に出逢い、本はたちまち傍線で埋め尽くされていきます。

「死ぬということがあるから、そこに生の意味というものがある…死こそ、生の意味というものを考える大事な問いなんである。いよいよ死ななくてはならん、ということになると、一生は夢のようであったとか、むなしく一生を送ったとかいう悲しみが出てくるに違いないのであります。…死が問題になったということで、生きるということの意味がとけてくることの方式はそうであります。」と、死に直面した人が、生の意味を求める非常に大事な問いを持つと書かれています。

「人生50年の背後には、無限の命が働いているのである。そう考えるときには、情けないことではなくして、その死んでいくことが、そこに、これで人間世界に生まれたかがあると感じることが出来る。そうなれば、安らかに死んでいくこともできる。そこに生の内側に限りなき命を感じ、死の外側に光を観ずるということになるというものである。…それが宗教感情というものである」。死の問題の解決に至る道筋を教示してくださっています。

とくに印象深かったのは、「人間の業と煩惱について」で、私自身がいかに煩惱具足であるかを、事細かに説いてくださっています。先生の言葉により、自分の心を見つめると、醜く、欲深い私にすべてが当てはまることに驚くと同時に、先生自身の自己洞察の深さを感じました。

「一如の世界」「生死の世界」「佛について」「人間苦について」と、人間についての深い洞察は続きます。まだまだ、心動かす言葉はたくさんありますが、紙面が足りず残念です。最初に感じた人間を知る（私を知る）機会をいただき、これからも座右の書としていきたいと思っています。とても大切な1冊に出遇えた幸せを感じております。 合掌

(〇〇〇〇 <△△>)

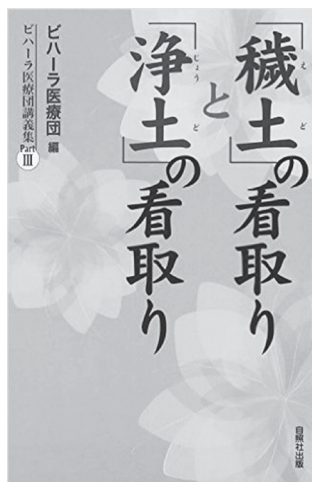
※ 金子大栄 (1881 ~ 1976) 真宗大谷派僧侶・仏教思想家



「穢土」の看取りと
「浄土」の看取り

ビハーラ医療団編
(ビハーラ講義集 Part III)

自照社出版
1500円+税



「第15回ビハーラ全国集会」(2015年2月14日)で基調講演をいただいた志慶眞文雄師(しげま小児科医院院長)は、田代俊孝先生に誘われて、「ビハ

- ◇ 老いの悩みに
- ◇ 病の苦しみに
- ◇ 死別の悲しみに

ビハーラ
電話相談

☎03-5565-3418

相談日：月曜～金曜
午後2～5時

*面談でのご相談も可能です。
まず、お電話をください。

浄土真宗 東京ビハーラ

東京都中央区築地 3-15-1 築地本願寺内

ーラ医療団」に入会されました。当初は、「ビハーラ」について「ターミナルケア・終末医療・緩和ケア」というイメージであり、開業医として戸惑いながら、何ができるかを模索しながら、医療団の活動に参加されていたそうです。しかしあるとき、どの人も、いつも、死と隣り合わせというのが現実で、「皆、死すべき生」を生きている(予期しない病で亡くなる、交通事故に遭って亡くなる、震災で突然亡くなる)との思いに至られ、ビハーラ活動を、亡くなっていく人やターミナルケアなどと、狭く考えなくてもいいのではないかと、むしろ「死すべき生」を日頃から考えることを、ビハーラ活動の原点にすえてもいいのではないかと、言っておられます。

『「穢土」の看取りと「浄土」の看取り』に掲載されている志慶眞師の「生死を超える道としてのビハーラ活動」の講義録は、先の「第15回ビハーラ全国集会」での基調講演とも重なる内容ですので、ぜひ、お読みいただきたく、ご紹介いたします。

(〇〇〇〇 <△△>)

ビハーラ活動をサポートしています

創業 1586年 技術・信用・伝統・新しい力へ

松井建設株式会社

本社：東京都中央区新川1-17-22 TEL (03) 3553-1150
東京支店：東京都中央区新川1-17-22 TEL (03) 3553-1171
支店：大阪・名古屋・北陸・東北・九州
ホームページ <http://www.matsui-ken.co.jp/>

創業天保元年 伝統工芸 京仏壇・京仏具

株式会社 若林佛具製作所

【東京店】〒146-0081 東京都大田区仲池上2-8-13
TEL.03-3755-8488(代) FAX.03-3755-8450
【築地店】〒104-0045 東京都中央区築地3-15-1(築地本願寺内)
TEL.03-3546-8228(代) FAX.03-3546-8159

京都本店・札幌店・仙台店・近江草津店・新潟(営)・福岡(営)

☎0120-37-8585 www.wakabayashi.co.jp

東京ビハラー

2015年度は次のような活動をしています

がん患者・家族語らいの会

日時：毎月第2土曜日午後（1時半～午後4時半）
会場：築地本願寺講堂 他
会費：会員無料 一般500円
内容：ゲスト講師の講話を聴き、小グループにわかれて苦しみを語りあいます
分科会 まず一人一人が短く自己紹介。その後、苦しみを主人公として傾聴。終わりの15分程度で、参加者の感想や思いを順次聞く。

《2015年度の講師》

- 4月11日 田中雅博氏（僧侶・医師）
「僧侶である私が医師になった理由」
- 5月9日 角美奈子氏（医師）
「放射線治療とうまく付き合うには」
- 6月13日 西原祐治氏（僧侶）
「苦しみは成長の扉」
- 7月4日 追悼会（音楽法要）
法話 北村信也氏（僧侶）
「みほとけに抱かれて」
- 8月8日 梅田耕明氏（医師）
「在宅訪問診療におけるターミナルケア」
- 9月12日 田中至道氏（臨床宗教師）
「在宅医療における臨床宗教師の実践」
- 10月10日 原山建郎氏（ジャーナリスト、遠藤ボランティアグループ代表）
「遠藤周作の“病い”と“神様”」
- 11月7日 国森康弘氏（写真家）
「いのちをつなぐ——看取りの現場に想う」
- 12月〇日 未定
- 1月〇日 未定
- 2月〇日 未定
- 3月〇日 未定

◎秋の旅行会

期日：9月28・29日 群馬県（藤岡市西蓮寺、富岡市蓮照寺・富岡製紙工場など）

◎通信発行

毎月「がん患者・家族語らいの会通信」発行
（毎月最終金曜日発送）

電話相談部会

◎ビハラー電話相談

月曜日～金曜日（祝日を除く）午後2時～午後5時
別れの悲しみ、老いの寂しさ、死の苦しき
——お電話下さい 電話番号 03 (5565) 3418

ビハラー・ケア研究部会

●仏教カウンセリングを語り合う会

講師 種村健二郎氏（医師）
日時 毎月第3木曜日
午後1時半～午後4時

会場 築地本願寺 白檀

会費 お茶代200円（毎回）

●東京ビハラー・ケア研究会

日時 毎月第4月曜日午後7時～

会場 築地本願寺ビハラー室

内容 「外儀は仏教のすがたにて内心外道を帰敬してないだろうか」に視点を当てて、輪読し、疑問点などを話し合う

●月曜勉強会

講師 種村健二郎氏（医師、元武蔵野大学教授）

日時 毎週月曜日 午前10時30分～午後1時30分

内容 山崎龍明氏の『初めての歎異抄』をもとに、実践活動の中での浄土真宗の教えを考える

会場 築地本願寺ビハラー室

会費 100円（毎回）

●傾聴研修会

講師 種村健二郎氏（医師）

日時 10月22日（水）

午後1時20分～4時

会場 築地本願寺 伽羅

●ビハラーを考える会

講師 田中教照先生（武蔵野大学学院長）

日時 第1回 9月00日

第2回 9月15日 11:30～14:30

会場 築地本願寺第2伝道会館伽羅の間

施設訪問部会

◎あそか園（江東区）

法話会（第4水曜日午後4時20分）

居室訪問（第4水曜日午後2時～午後4時）

傾聴ボランティアの体験をしませんか。

希望者を募集しています。お電話下さい。

◎小坂橋病院（松戸市）

法話会（毎月第3水曜日午後2時15分）

◎緑風園（松戸市）

法話会（毎月第1水曜日午前10時）

「ビハラー」の開設に向けて

◎随時検討

◎小児科入院患者への別院宿泊斡旋窓口

国立がんセンター中央病院、聖路加国際病院に入院の小児がん患者の父母の皆様は、築地別院に宿泊できます。

ビハラー会報

◎第44号 10月1日発行（本号）

内容 ビハラー実践活動協議会の講演レジュメ、他

その他

◎教区主催のビハラー講座・協議会への協力

編集後記

この7月より、「東京ビハラー室」が築地本願寺境内地内の第2伝道会館1階店舗（若林仏具製作所築地支店さんのお隣）に移転しました。以前の3倍ほどの広さになりました。現在は、電話相談、『通信』作成発送、会合の場が主ですが、ここをステーションとしたビハラー活動を展開できないものかと模索しております。発会当初より「ビハラー」建設を目標にしておりますが、その第一歩として、この新ビハラー室をどう活かしていっていいか、皆さまのご意見をお聞かせいただきたいと思います。（〇〇）